

## 習近平は良い人デス(汗)

私は 20 歳代最後の年に西ドイツを旅行しました。スパイ映画に出てくる冷たい日の曇天のような東ベルリンを見てみたいのが私の夢でした。今から思うと米ソ冷戦時代の終末をこれから迎えようとしていた頃です。しかしそんな大事件が数年後に訪れるなどと世の中の誰が思っていたことでしょうか。

現地で知り合った男性は奥さんが日本人で日本語を話すことができる人でした。彼に、「ドイツが再び一つの国になる日が来ると思いますか？」と尋ねてみました。すると彼は、「そんな夢のような事、絶対にあり得ない！」と力を込めて答えたことがとても印象に残りました。世界の大きな変動は、案外静かに前触れもなくやってきて大河の流れのようにすべてを飲み込んでいくように、「ベルリンの壁の崩壊」をテレビで見てそう印象に残りました。

私が生まれて初めて海外旅行を経験したのは 19 歳の時 1979 年の 12 月でした。行先は中国で、暗黒の時代「文化大革命」が終わって 4 年経過した時です。当時の中国は誰もが自由に渡航できず、「佛教友好団」の一員として参加し、日中友好のために組まれた小学校等の施設へも否応なしに訪問しなければなりません。現地の佛教寺院へは崖を含む山道を 1 時間以上歩きました。荒れ放題で、お堂の中の石畳には秋に収穫された豆が一面に干してあるという有様でした。もちろんお寺としての活動は全くなされていない状態でした。街中の様子も現在の中国とは全く似つかないものです。北京でさえも自動車など滅多に見ることなく、人民服姿の人が乗るおびただしい数の自転車が往来していました。



海外の旅行者は現地の人に接することは全く許されず、常に当局の通訳と一緒になければ行動できません。すれ違う人は皆無言で決して目を合わせることはなく、その目線からは測りきれない陰しさのようなものを感じました。現在のようなたたまたま会話している中国の人と比べるととても同じ国の人とは思えません。他人から何事も悟られまいとしているその振る舞い。多くの人命をうばった文化大革命がどれほどのものか想像できます。

旅行中、北京の公園を歩いていた時に通訳の男性が話しかけてきました。二人きりです。高倉健さん似のがっしりした人です。彼は中国ではエリートだと思いました。…「3 日前に北京の公園の凍った池での出来事です。小学校の女性教師がスケートの授業をしていました。すると氷が割れて女の子が池に落ちました。あっという間に教師の周りに人だかりが出来て大声で救助に対する報酬の値段交渉が始まりました。女の子を助ける者は皆無でその交渉の間に女の子は犠牲になりました。我が国はそういう人民の集まりなのです。将来隣国のあなた方の「脅威」になることを決して忘れないでください」と彼は告げました。この旅行で一番印象に残り、私は生涯忘れることはないでしょう。

8 月 15 日、原稿の締め切り。お盆が終わり必死で原稿を書き、これから迷走坊さんにメールで送信します。ひょっとしたら中国共産党がこのメールを傍受して、私と迷走坊さんは中国の悪口を書いた罪で、「国家安全維持法」により犯人引渡し条約のない韓国ソウルあたりで数年後に逮捕されるかも知れません。他人事ではありません。特に「習近平の大バカ」など書いたり言わないでください。中国の「国家最重要機密」らしいですから。 俊徳丸